

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2298400041		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム湖西(1階)		
所在地	静岡県湖西市鷺津2522-33		
自己評価作成日	平成31年1月7日	評価結果市町村受理日	平成31年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2298400041-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設らしくない施設を念頭において、自宅にいるように自由な生活を支援しています。まず、食べることは入居者様にとって一番の楽しみですので、食べたいものをできる限り制限することの無いように食べて頂いております。ホームでのおやつその他に個人個人の好みのお菓子やジュースなどをご用意しており、いつでも好きな時間に提供しています。冬などはテーブルの上にミカンが置いてあり、自由に食べて頂いております。食事以外にも個々の趣味などに合わせて、随時お買い物にお連れしたり、スタッフがマンツーマンでご本人様の思い出の場所にお連れしたり、お墓参りにお連れしたりして、行動についても制限をできる限りしない支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初の職員が他事業所に異動するとともに勤務職員もヘルプに駆り出されていて、人員不足な面は否めませんが、その状況の中「どうやって利用者に心地良い生活を送ってもらえるか」、一人ひとりの職員が考えて行動している点が、「流石、愛の家湖西だ」と感じ入る点です。このような状況で前回目標とした『認知症カフェ』『ホームの学童利用』は棚上げ状態ですが、これまで同様インフルエンザ、ノロウイルス等感染症に罹患した利用者はゼロです。また現在、ペルー人の職員が2名おり、夜勤も担当できるほど教育の習得が進み、記録も日本人職員よりも丁寧に書き入れている、事業所の打開策となるべく頼もしさが膨らんでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員ひとりひとりが入居者様の入居前の状況を把握しており、入居前の環境や資源を入居後につなげられる様に支援している。	「理念を覚えるよりも、理念に対して行動できるようになる」ことに留意して、職員がよりアクティブに利用者の状態や意向に応えることができるよう、管理者が言って聞かせたり、目配りしています。また、その取組みで何が分かったのか、職員が考察するよう質問を投げかけてもいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や町内会に属しており、イベントや活動などへ双方向で参加している。	湖西高校の文化祭ポスターの掲示依頼や特別支援学校の就労支援の受入れ、防災訓練には利用者2名との参加が叶っていて、地域の幅広い世代とのふれあい、交流が継続されています。また、退去した利用者家族からも未だに便りが届き、ご縁を大切にしていることが覗えます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の中学生のボランティアや職業体験、支援学校の生徒の就労支援などを受け入れ、次世代に認知症介護を知っていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場では、写真などをお見せして、現状を報告し、参加者からは現実に沿った意見をいただいている。	利用者家族の紹介で入居が決まった利用者の家族も運営推進会議デビューを果たす一方で、長年携わってくださる民生委員は、昨年の大停電で事業所の灯火が一番遅かったことを行政に意見くださるなど、開設以来積み重ねた重みが滲む場へと成長しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の長寿介護課の担当者は運営推進会議にも欠かさず参加いただき、人員不足などの実情にたいしてもご配慮いただいている。	湖西市長寿介護課介護保険係の係長が毎回運営推進会議に出席して下さっていて、災害時の対応や熱中症対策等具体的に指導的意見を挙げてくださいる為、昨年度の実地指導では普段のやりとりが効果を発揮して、特段の指摘はありませんでした。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・不適切ケアへの会社システムにおいて研修等を行い、知識を習得し実践している。	本年の法改正に伴う『身体拘束適正化委員会』は、5月に発足、会議運営も順次進めています。本件に係る研修を四半期に実施、法人が推進する「身体拘束不適切ケア・チェックシート」を運用しての3ヶ月に1回のチェックも長年継続し、適正化に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても、身体拘束への取り組み同様にチェック機能が働いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社から配信される法務案内などを回覧し、知識を得ています。実際の制度利用者の環境などからも制度の理解ができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定時には書面をもつての案内に合わせ各人に時間を十分に取り説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	社内アンケートは意見等の実施や改善を行われるところまで、追跡して行うものとなっている。	事業所通信「一二三(ひふみ)たより」を毎月家族に届けるとともに、面会の場を利用して家族とのコミュニケーションを図っています。家族からの意見や要望は利用者本人のことに終始していて、運営などについての進言は今のところ挙がっていません。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内アンケートは様々な項目を設定しており、職員が意見を素直に書き込むことができるものになっている。	委員会活動は中心となる職員が法人内の他事業所へヘルプで不在となることが多く、現状機能しているのはイベント委員会のみです。それでも職員は総じてフォローし合うことができおり、ペル一人職員2名との異文化摩擦も顕在化させず穏便に収めています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今までのキャリアパスに加え、職員の階級制が導入されたことにより、評価や給与がより明確に反映される様になった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスの要件には、段位に合わせて一定の研修の終了を求めており、能力に合わせて研修を受けていくことになる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業管理者間では、定期的に情報交換が行われているものの、そこで上がる相互勉強の場を作ることは、各職場状況により実施されていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	定着している職員が多いため、新規入居の方への対応は安心できる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回見学時から施設側からの説明よりもお客様の現状や困っていることを聞くことにウエイトをおいて対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームに入居がベストな選択でない場合などは当社他施設や他業者施設の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは自分で行っていただく、出来るお手伝いはしていただく、自分だけの時間をもって頂くなど、ご本人様主導に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様にとって有用な場合は、面会の機会を増やす意味も含めて受診に行っていたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームでは往診を行っておりますが、状況が許す場合には、入居前の主治医に受診をおこなっております。	生け花を趣味としていた女性四人組は毎月、所内カルチャーセンターもどきの集まりで、賑わっています。縫物が得意な人は裾の縫い上げのほか、職員の子どもの弁当袋まで作っていて、今でも腕を奮っています。また毎月短歌仲間が集まる詠み会が優雅に継続されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居前の情報やアセスメントより、スムーズに入居後に他者に馴染んでいけるように座っていただくテーブルを選んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も定期的に退去先を訪問し、ご本人様にお会いしています。退去者のご家族も差し入れにホームを訪れて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	危険を伴うこと以外は、とりあえずはご本人様のやりたいことをやっていただき、その後のフォローから職員は関わるようにしている。	「墓参りに行きたい」との声に「では息子さんがいらしたときに」では想いをつなげないとして、「出来る限りその日の実現を」としています。そのようなスタンスもあって「苦しい」を繰り返すのみの利用者が、本当は「寂しい」という意味を込めて言っていたのが分かったという例もあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当のケアマネージャーからの情報収集はもちろんのこと、必要な場合は入居前施設の職員にも話を聞いている。ご本人様のお宅を訪問し、ご近所の話をも伺うこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過度の介助や介入をせず、出来るところまで本人の解決する力を引き出すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	理学療法士や歯科衛生士の意見もご家族の確認の上取り入れている。	理学療法士(PT)、歯科衛生士が委託契約で、毎月訪れています。PTについては短期目標に沿った個々への助言とともに、介護計画書には生活機能向上計画書が付記され、サービス担当者会議の要点にも「生活機能向上に関する評価・助言」が記載されていることを視認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス内容実施記録にて毎日モニタリングを行い、ケアプランの次更新に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入退去時の引っ越しのお手伝いや外泊時に自宅を訪問して状態を確認したりもしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節ごとに春は本興寺の桜、新所のあじさい、親水公園のこいのぼり、など市内の名所をめぐっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医から直接連絡をいただける程、連携してご本人と家族に安心をいただいています。	協力医と実際診療する医院が異なる、体制です。月1回訪問診療をおこなう医師に利用者14名が変更し、他4名は在宅の頃からの医師への通院を家族の付き添いで続けています。法人勤務の看護師が週2回健康管理に、また訪問歯科も月1回来所しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員も常に個々の配薬表を確認しており、ご本人様にあった処方が行われるように看護師と確認をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	市内の入院先の病院においては、長期の入院が認知症にあたる影響を理解いただいております。早期の退院につながっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化への対応は入居時に説明を行い、ご家族の意向も確認しており、順次住み替えなどを行っている。	法人が定めた年間研修にも本件は組込まれ、年1回の研修は必修としています。開設8年となり、利用者も年々高齢となっていて近いうちに3名の看取りが想定され、家族が「事業所で」と望んでいるため、「どこまでできるかを検討していかなければ」、としています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内の注意喚起やブログによる研修の配信を受けて、実践につなげている。ベテラン職員が多く、初動にミスは見られない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	繰り返し確認を行っており、昨年起きた長期の停電にも問題なく対応できた。	4日間の大停電を昨年経験しましたが、これまでの訓練の賜物で、不安無く過ごすことができます。食糧も保管していたもので十分に足り、ランタンをテーブル、トイレ、廊下と各所に置いて対応、「暗くて困った」ということがなく、「訓練を積み重ねた」ことへの自信に結ばれています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重は多角的なことであるため、入居者様から名前をあえて「むっちゃんと呼んで」との要望にも柔軟に対応している。	見えにくいメガネ装着、手袋をつけてボタンを外すなどで「聞こえにくい、見えにくい」ということを実感したり、職員が利用者役になり、椅子から立ち上がるうとした時に別の職員に「座ってて」と言われた時どう感じるかといった『高齢者体験』を重ねて、気持ちの理解に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事などへの参加においても無理強いをせず、ご本人のご希望により参加いただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	三度の食事の時間は一応決まっているものの、ひとりひとりが捕らわれることなく自由にいただいている。就寝や起床も個人による。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の白髪染めをしたり、化粧品の買い出しにでかけたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理職員も積極的に入居者様に関りを持ち、キッチンに誘ってお手伝いをお願いしたり、一緒に洗いものなどしている。	昨年新しく調理担当となった職員は利用者にもよく声をかけていて、調理へ上手に参加させていて、「楽しく」に努めて星形の人参などの工夫にも尽力しており、利用者の摂取量も増えています。畑からの収穫料理、3ヶ月に1度の外食、行事食にも取組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一定の数字や量にとらわれず、個人にあった量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導なども取り入れ、個人に合わせたケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員手作りのリハビリパンツを使用するなど、パットなどの使用を減らすとともに、入居者様の不快感の軽減に努めている。	自身が使うパットにいたずらしてしまう利用者の為に、布パンツの外側に防水シールの短いものを重ねて縫いつけ、皮膚にあたる部分に柔らかいタオルを縫い込むという手作りの布パンツを職員が作成しています。その後、難儀な行為も無くなっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬する薬による便秘が多く見受けられるため、服薬を最小限に減らすことで、便秘の方はいなくなった。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望者やケースに合わせ、夜中や早朝での入浴も行っている。	入浴は週2~3回を目安に、一人ひとり湯を入れ替えるたびに浴槽掃除もして、清潔第一に取り組んでいます。浴室内に窓が無い為換気が難しく、清掃には特に力を入れていて、浴室、脱衣スペース共によく行き届いている様子を視認しました。	大変清潔な取組みで感心しますが、今後は「入浴を楽しむ」ためのツール、方法等も検討されることを期待します。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬の間は入浴とは別に、就寝前に足浴を行い、快適に就寝につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬0が理想であるため、余分な服薬を削減している。職員は配薬表にて確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居期間の長い方の役割は決まったものになっているが、新入居の方には選択肢を広くし、限定的にならないよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が磐田市出身の入居者様のために、電車にて磐田に同行し、なつかしの地を案内したこともある。	1月初詣、4月は花見、6月紫陽花鑑賞、9月はガーデンパークへの遠足と、季節毎の外出行事を重ねてはいますが、事業所としては個別外出に力を入れています。以前営んでいた菓子店まで、現在の店主である甥を訪ねて職員と電車に40分揺られ旅したという利用者もいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解のもと、ご本人様の安心の為、お金をもっておられる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はフロアの電話を自由に使用していただいております、手紙や年賀状などのやり取りの支援もおこなっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の花を欠かさないようにしたり、1Fフロアにはこたつを設置したりしている。	リビングの端にソファーとソファーを向い合わせに置き、その間にある炬燵には利用者がソファーに腰掛けて足を投げ出すように入れてヌクヌクとした感覚に浸っていて、家庭の茶の間感満載です。また壁の一番高い場所に貼られた書き初め作品からも暮らしの安寧が覗えます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーのスペースは広くとっており、その場で読書や縫物など各自が好きなことをさせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に認知症のことをご理解いただき、出来るだけ使い慣れた安心できるものを居室に用意いただいている。	クローゼット、エアコン、カーテンが備わるも、ベッドは持ち込みで電動ベッドの居室もあるほか、加湿器を置く人もいます。ベッドの傍にCDラジカセ、枕元には大好きな歌手のカセットテープが並び、自分だけの時間を満喫している様子が感じられます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカーや杖の方も安心して歩けるように余分な物は置かないようにしている。また、トイレや浴室、自身の居室が分かるようにしてある。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2298400041		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム湖西(2階)		
所在地	静岡県湖西市鷺津2522-33		
自己評価作成日	平成31年1月7日	評価結果市町村受理日	平成31年3月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail%2018_022_kami%3Dtrue&JigyosyoCd=2298400041-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設らしくない施設を念頭において、自宅にいるように自由な生活を支援しています。まず、食べることは入居者様にとって一番の楽しみですので、食べたいものをできる限り制限することの無いように食べて頂いております。ホームでのおやつその他に個人個人の好みのお菓子やジュースなどをご用意しており、いつでも好きな時間に提供しています。冬などはテーブルの上にミカンが置いてあり、自由に食べて頂いております。食事以外にも個々の趣味などに合わせて、随時お買い物にお連れしたり、スタッフがマンツーマンでご本人様の思い出の場所にお連れしたり、お墓参りにお連れしたりして、行動についても制限をできる限りしない支援に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設当初の職員が他事業所に異動するとともに勤務職員もヘルプに駆り出されていて、人員不足な面は否めませんが、その状況の中「どうやって利用者に心地良い生活を送ってもらえるか」、一人ひとりの職員が考えて行動している点が、「流石、愛の家湖西だ」と感じ入る点です。このような状況で前回目標とした『認知症カフェ』『ホームの学童利用』は棚上げ状態ですが、これまで同様インフルエンザ、ノロウイルス等感染症に罹患した利用者はゼロです。また現在、ペルー人の職員が2名おり、夜勤も担当できるほど教育の習得が進み、記録も日本人職員よりも丁寧に書き入れている、事業所の打開策となるべく頼もしさが膨らんでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員ひとりひとりが入居者様の入居前の状況を把握しており、入居前の環境や資源を入居後につなげられる様に支援している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会や町内会に属しており、イベントや活動などへ双方向で参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市内の中学生のボランティアや職業体験、支援学校の生徒の就労支援などを受け入れ、次世代に認知症介護を知っていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の場では、写真などをお見せして、現状を報告し、参加者からは現実に沿った意見をいただいている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の長寿介護課の担当者は運営推進会議にも欠かさず参加いただき、人員不足などの実情にたいしてもご配慮いただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・不適切ケアへの会社システムにおいて研修等を行い、知識を習得し実践している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についても、身体拘束への取り組み同様にチェック機能が働いている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会社から配信される法務案内などを回覧し、知識を得ています。実際の制度利用者の環境などからも制度の理解ができています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や改定時には書面をもつての案内に合わせ各人に時間を十分に取り説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	社内アンケートは意見等の実施や改善を行われるところまで、追跡して行うものとなっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	社内アンケートは様々な項目を設定しており、職員が意見を素直に書き込むことができるものになっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今までのキャリアパスに加え、職員の階級制が導入されたことにより、評価や給与がより明確に反映される様になった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	キャリアパスの要件には、段位に合わせて一定の研修の終了を求めており、能力に合わせて研修を受けていくことになる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業管理者間では、定期的に情報交換が行われているものの、そこで上がる相互勉強の場を作ることに限っては、各職場状況により実施されていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	定着している職員が多いため、新規入居の方への対応は安心できる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回見学時から施設側からの説明よりもお客様の現状や困っていることを聞くことにウエイトをおいて対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	当ホームに入居がベストな選択でない場合などは当社他施設や他業者施設の紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは自分で行っていただく、出来るお手伝いはしていただく、自分だけの時間をもって頂くなど、ご本人様主導に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様にとって有用な場合は、面会の機会を増やす意味も含めて受診に行っていたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームでは往診を行っておりますが、状況が許す場合には、入居前の主治医に受診をおこなっております。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居前の情報やアセスメントより、スムーズに入居後に他者に馴染んでいけるように座っていただくテーブルを選んでいます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も定期的に退去先を訪問し、ご本人様にお会いしています。退去者のご家族も差し入れにホームを訪れて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	危険を伴うこと以外は、とりあえずはご本人様のやりたいことをやっていただき、その後のフォローから職員は関わるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当のケアマネージャーからの情報収集はもちろんのこと、必要な場合は入居前施設の職員にも話を聞いている。ご本人様のお宅を訪問し、ご近所の話をも伺うこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	過度の介助や介入をせず、出来るところまで本人の解決する力を引き出すようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	理学療法士や歯科衛生士の意見もご家族の確認の上取り入れている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	サービス内容実施記録にて毎日モニタリングを行い、ケアプランの次更新に反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入退去時の引っ越しのお手伝いや外泊時に自宅を訪問して状態を確認したりもしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節ごとに春は本興寺の桜、新所のおじさい、親水公園のこいのぼり、など市内の名所をめぐっています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医から直接連絡をいただける程、連携してご本人と家族に安心をいただいています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員も常に個々の配薬表を確認しており、ご本人様にあった処方が行われるように看護師と確認をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	市内の入院先の病院においては、長期の入院が認知症にあたる影響を理解いただいております。早期の退院につながっています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化への対応は入居時に説明を行い、ご家族の意向も確認しており、順次住み替えなどを行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内の注意喚起やブログによる研修の配信を受けて、実践につなげている。ベテラン職員が多く、初動にミスは見られない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	繰り返し確認を行っており、昨年起きた長期の停電にも問題なく対応できた。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重は多角的なことであるため、入居者様から名前をあえて「むっちゃと呼んで」との要望にも柔軟に対応している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行事などへの参加においても無理強いせず、ご本人のご希望により参加いただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	三度の食事の時間は一応決まっているものの、ひとりひとりが捕らわれることなく自由にいただいている。就寝や起床も個人による。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望の白髪染めをしたり、化粧品の買い出しにでかけたりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理職員も積極的に入居者様に関りを持ち、キッチンに誘ってお手伝いをお願いしたり、一緒に洗いのなどしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一定の数字や量にとらわれず、個人にあった量の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科衛生士の指導なども取り入れ、個人に合わせたケアを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員手作りのリハビリパンツを使用するなど、パットなどの使用を減らすとともに、入居者様の不快感の軽減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬する薬による便秘が多く見受けられるため、服薬を最小限に減らすことで、便秘の方はいなくなった。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望者やケースに合わせ、夜中や早朝での入浴も行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	冬の間は入浴とは別に、就寝前に足浴を行い、快適に就寝につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬0が理想であるため、余分な服薬を削減している。職員は配薬表にて確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居期間の長い方の役割は決まったものになっているが、新入居の方には選択肢を広くし、限定的にならないよう配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が磐田市出身の入居者様のために、電車にて磐田に同行し、なつかしの地を案内したこともある。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解のもと、ご本人様の安心の為、お金をもっておられる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話はフロアの電話を自由に使用していただいております、手紙や年賀状などのやり取りの支援もおこなっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関の花を欠かさないようにしたり、1Fフロアにはこたつを設置したりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファのスペースは広くとっており、その場で読書や縫物など各自が好きなことをさせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族に認知症のことをご理解いただき、出来るだけ使い慣れた安心できるものを居室に用意いただいている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	シルバーカーや杖の方も安心して歩けるように余分な物は置かないようにしている。また、トイレや浴室、自身の居室が分かるようにしてある。		